

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670101591		
法人名	医療法人社団 緑愛会		
事業所名	グループホーム 友結		
所在地	山形市桜田西1丁目13-9		
自己評価作成日	平成 23 年 10 月 1 日	開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 24年 2月 13日	評価結果決定日	平成 24年 3月 2日

(ユニット名 みずき)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が、ご家族や住み慣れた場所から離れても、安心して穏やかに生活でき、共同生活の中で楽しみと生きがいを持って頂ける様に取り組んでいます。
また、ご家族と共に職員がお一人おひとりに寄り添い、認知症状に合わせたケアを行い、その人が生き生きと生活して頂ける様に自立支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念と事業所理念を踏まえながら、「最後までその人らしく生き生きと暮らせる」ように支援し、生活の中に笑いが持てるよう意識して日々利用者に接しています。人材育成に力を入れ、計画的な内外研修の機会を確保し、職員が認知症ケアの専門職として向上心を持って取り組み、アンケートや家族交流会等より出された利用者・家族等の様々なニーズに応えられるように研鑽している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をユニット玄関や職員の目に付くところに掲示し、常に意識できるようにしている。理念実践のために、毎月のケア目標を立て取り組んでいる。	こやまケア10の方針を抜粋して毎月のケア目標に取り入れ、全職員が共有している。理念の実現に向けて、目標を意識した関わり方の工夫で、帰宅要求が減った利用者もおお実践に結びついている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設主催の介護教室で、地域の方と一緒に体操等を行っている。また、地域の活動(掃除、草取りなど)、行事(盆踊り、たるみこし)への参加を行い、地域の一員として交流を図っている。	町内会に加入しており、地区の盆踊りには利用者も一緒に参加し、職員は行事運営にも携わって地域の方との交流を深めている。事業所では夏祭りや体操教室を開催し、福祉に関する相談や制度の説明も行い、事業所自体が談笑の場となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年4回介護教室を開催し、その中で認知症についての勉強会も行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催と常に会議で報告話し合い、意見をいただき、対応を行っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ターミナルケアの取組みや事例発表、医療との連携について等のテーマで、事業所の状況報告や情報交換をしている。今年から職員も出席し、会議の内容を共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の提出を行い、議事内容を報告している。定期的に市との連絡を行い、広報誌や現状の報告を行っている。	市の担当者は認定調査で来訪し、また、毎月1回介護相談員が来てアドバイスをもらうなど、質の向上に役立っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、職員一人ひとりが理解をし、身体拘束をしないケアを行っている。また、夜間以外は開錠し、職員の見守りにて対応している。	身体拘束マニュアルや勉強会を通じて職員に周知し、拘束となる具体的な行為や弊害については良く理解している。本人の気持ちを大切に抑制せず、会議の中で、利用者が引き起こす行動の原因を分析し、安全確保のための方法を具体的に検討して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する勉強会を行い、知識の共有している。また、虐待をしていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議の時間に勉強会を行って、活用できるように情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書を基に事業所の説明を充分に行い、理解と納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には、苦情相談窓口を設置している旨を説明している。また、玄関先にご意見箱の設置や年2回アンケートを実施し見直している。苦情に対しては誠意をもって対応している。	意見箱の設置やお客様アンケートの実施、家族交流会等、積極的に意見や要望を表す機会を確保している。職員は、普段から面会時に声がけしたり行事への参加の呼びかけ等、家族等との関係を大切にしている。出された意見は全体会議で話し合い、サービスの向上に活かしている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などでの意見交換、定期的に面談を実施することで、発言しやすい環境作りに配慮し、運営に反映できるように心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理制度を導入し、具体的数字で評価することによって、職員が納得できるように努力している。また、毎年人事考課を実施し、一人ひとりの実績の把握をし評価している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員にはプリセプターシップを導入し、育成に努めている。また、県村山ブロック主催の研修に積極的に参加し、法人内の研修へも参加する機会を確保している。	法人内のグループホーム連絡協議会では、接遇や新人、中堅研修が行われ、事業所内でも教育委員会が企画し年間計画を立て、全職員が受講している。外部研修にも交替で職員が参加し、全体会議の中で伝達報告し合い、新しい発見を管理者が取りまとめて実践に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県村山ブロックグループホーム連絡会の会議や勉強会・訪問研修などに参加し、意見交換することで、お互いにサービスの質の向上に繋がられるように取り組んでいる。	県グループホーム連絡協議会の機会を利用し、同業者との交流を図っている。交換実習の派遣や受け入れも積極的に行い、他事業所の優れている点、当事業所の良い点等を再認識し、サービスに反映している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に訪問させていただき、ご本人から困っていることや不安なこと、要望などを伺い、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に訪問させていただき、ご家族から困っていることや不安なこと、要望などを伺い、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に事前情報を元に担当者会議・カンファレンスを開催し、ご家族やご本人の希望を受け止め、サービス内容を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、ご利用者様の思いを尊重し、ご利用者様の意思決定の元、ご利用者様のペースで生活を行っていただき、生活を共にしている者同士の関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時や近況報告の連絡、面会時にはゆっくりとくつろげる空間作りに配慮している。また、年に3回、家族交流会を開催し、喜怒哀楽を共有できるようにしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の方との交流、行きつけの店や馴染みの場所へ個別で外出援助することで、関係が途切れないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内外でのレクリエーション以外でも、日常生活(食事、お茶の時間)でも、関わり合えるよう、職員が間に入り、話題提供を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じ、ご本人、ご家族への相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを活用し、生活歴や職歴を把握し、お一人おひとりに合ったサービスを提供できるように支援している。また、介護計画の変更時にはご本人、ご家族の意向を伺い、反映させ、思いを汲み取っている。	一人ひとりの生活歴を把握し、生活を支える為のアセスメント、センター方式やひもときシートを取り入れて、職員は観察や気づきを記録し共有している。思いを伝えることが困難な方には、家族等から意向を聞きながら、利用者の立場になって支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネージャーなどから情報を収集し、センター方式のアセスメントを活用し、入居されるまでの生活力が継続できるように配慮し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントを活用し、サービス担当者会議にてお一人おひとりに合った過ごし方や役割の提供、残存機能の活かし方など細かく把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントを活用し、サービス担当者会議でお一人おひとりに合ったケアのあり方をサービス内容に落とし込んでいる。また、月1回のモニタリングで状態変化や入退院があったなど、状態に合わせて介護計画を作成、変更を行っている。	日々の関わりの中で利用者、家族等の希望や意向を聞き、担当者会議で意見を出し合い介護計画を立案している。6ヶ月毎、また、状態が変化した時にはその都度見直し、現状に即した計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録と特記事項を記録し、その後の経過も記録している。また、情報共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載)</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>				
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の小学生ボランティアの受け入れや保育園へ雑巾などのプレゼントを届けたりし、交流を図っている。また、地区行事、市立図書館への外出等の支援を行っている。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医療機関等と相談し、ご本人、ご家族様の意向を伺いながら、適切な医療機関の受診が出来るように支援している。</p>	<p>基本的に職員が通院介助に同行し、協力医以外への診療は家族等に付き添ってもらっている。受診結果を記録し、報告は電話連絡で互いに情報を共有している。訪問看護との連携を密に図り、入院時等はスムーズな運びとなっている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医療機関との連携により、健康管理を行っている。また、医療連携で契約している看護師が週2回健康チェックを実施し、ご利用者様の状態を報告、相談し適切な対応ができるように情報共有している。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先の医師、看護師との連携を図り、医師のムンテラの同席やご家族との情報共有を図っている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に看取りに関することを説明し、ご家族の意向を伺っている。また、看取りについて職員の勉強会を行い、状態に合わせて協力医療機関、看護師と連携を取り、チームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>家族等の意向を大切に、現在ターミナルケアに取り組んでいる。今後、家族交流会では事業所の出来る範囲等を再度説明する機会を設けたいと考えている。また、職員も勉強会を通し体制を整え不安解消に取り組む姿勢がある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、定期的に勉強会も行い、いざという時慌てない様に訓練している。また、年1回救急心肺蘇生法の講習会を実施している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練で、火災だけではなく地震想定 の訓練を行った。近隣住民に参加を呼びかけ、緊急時の対応の仕方や状況の把握をして頂ける様にしている。	年二回の避難訓練には利用者も参加している。二階からの避難誘導を再確認し、それらを地域住民に見てもらい有事の際は協力を仰ぎたい考えがある。東日本大震災以降は反射式ストーブ等備蓄を見直し、災害に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや敬語、マナーについての研修に参加している。お一人おひとりに合った言葉掛けなども職員で統一し、気持ちよく生活して頂ける様に対応している。	方言を使った声かけや表情・目線に気をつけ、一人ひとりに合わせた親切な対応に日頃から努力を重ねている。職員同士でも、互いの気づきを教えあい切磋琢磨して質向上を目指している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、希望を伺い、常に自己決定できるように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活リズムを大切に、ご利用者様の希望に沿えるように、意見を尊重している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望時はもちろん、定期的に美容室、理容室へ行けるように支援している。また、希望があれば、職員が白髪染を行い、身だしなみやおしゃれの支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的な嗜好調査の実施と、毎日の買い物と一緒にいい好きな物を献立に取り入れている。また、調理を一緒に行い、教えていただくことでやりがいや生きがいに繋がっている。準備や片づけも役割として定着している。	職員が献立を作成し、その時々旬の食材を取り入れ、季節を楽しむ工夫がされている。利用者と共に買い物へ出向き、食べたい物を選び、自己決定できる場面作りや調理・配膳にも出来る力を発揮している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの摂れた食事が出来るようにカロリー計算を行い、摂取カロリー、水分量を記録に残すことで、お一人おひとりに合わせて食事量の調節を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔の清潔保持ができるように声掛けや介助を行い、お一人おひとりに合ったブラシなどを使用している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを把握し、状態に合わせて、自尊心に配慮し、下着の種類やリハビリパンツ、パットを使用し、時間や声掛けの工夫を行い、適切な排泄が支援できるようにしています。	利用者の排泄状況が一目で解かるチェック表を共有し、日中は最小限の声かけや同姓介助への配慮で自立排泄の誘導をしている。夜間は、ぐっすり就寝する事を大事にし、必要以上に起こさないようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの排泄パターンを把握し食物繊維や乳製品を食事の中に取り入れ、また、日々の活動や運動を促すことで個々に応じての工夫を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	事前に希望の時間を伺い、出来るだけお好きな時間に入れるように支援しています。	個浴や時間帯・好みの温度等希望に沿って選べるようにしている。バスマットや椅子を用意し、転倒防止に目配りしている。入浴を拒む方には、相性の良い職員と一緒に温タオルでの清拭や温泉へ出掛ける等の工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように、日中活動的に過ごしていただいたり、日中でも午睡の提供などお一人おひとりのペースに合わせて休息できるように支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理マニュアルに基づいて、薬の目的や副作用、用法や用量について把握し、適切な服薬介助が出来るように情報共有しています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活介護表を作成し、ご利用者様の生活歴を把握し、趣味や得意な活動ができるように提供し、張り合いや喜びに繋がるように支援しています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々希望に沿って戸外に出られるように支援し、また、日常や外出の機会に希望を伺う他に、事前に共同生活介護表に取り入れ、計画的にご家族や馴染みの方との外出や外食ができるように支援しています。	希望に合わせて個別の外出支援を行っている。冬期間は、ユニットの行き来や生活リハビリ(ラジオ体操・階段昇降)でなるべく動く機会を持ち健康を維持している。遠出時はトイレの場所確認や職員の増員等で、楽しく過ごせるよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの了承を得て、小遣い程度の現金を持参していらっしゃる方もいる。買い物援助の際は支払いを任せ、現金を扱えるように支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望時や定期的にご家族と電話で話ができるように支援しています。また、季節毎のはがきや手紙を定期的に自筆で書いていただき、近況報告が行えるようにしています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は常に清潔にし、季節の花や手作りの手芸作品、製作品を展示し、また、テレビの音や話し声が不快にならないように配慮し、居心地よく過ごしていただけるように工夫しています。	明るい日差しの差し込む共用空間は、利用者の作品掲示や季節感を取り入れている。家族等との談話や利用者が思い思いに過ごせるようソファや掘りごたつが設置されている。温度・湿度にも気配りし、体調に合わせてその都度調節している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、ダイニングのテーブルや椅子、和室、ソファでの空間で仲の良い方々や、一人で過ごせるような空間作りの工夫を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具やご家族の写真など馴染みの物を持ってきていただき、ご本人が居心地の良い生活が出来るように工夫しています。	畳と洋室の部屋があり、入り口には利用者の好みののれんや名札等で解かりやすくなっている。自宅に近い配置にしたリ、慣れ親しんだ物を持ち込み違和感のないように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式の出来る・出来ないシートや分かる・分からないシートを活用し、一人ひとりの状態に合わせて、安全に自立した生活ができるように支援します。		